

## 国際プロジェクトを考える ―社会基盤学の視点から―

月曜2時限，教養学部1731教室

分類：国際・地域一般

わが国の国内経済は曲がり角を迎え，多方面で構造改革が叫ばれている。一方で国境の垣根はますます低くなり，世界標準（グローバルスタンダード）が押し寄せてくるとともに，環境問題のように地球全体で取り組むべき課題も山積している。これからは，コミュニティのような地域社会で貢献できる人材とともに，国際社会で活躍できる人材が求められているといえる。

本講義では，貧困，環境・エネルギー問題といったグローバルで展開される問題と，人材育成，技術移転，紛争解決，地域開発といったローカルな問題の両者について，「工学の方法論」をベースに議論する。問題の切り口として，インフラ整備，公共技術戦略，社会のしくみの設計，政策立案・評価といった社会基盤学を視座の中心に据え，これまでに関わってきたプロジェクトの実例を交えながら講義を進める。

評価方法：毎講義においてA4で一ページ程度のレポート課題を課し，出席状況とあわせて評価する。（出席30%，レポート70%）

レポートについて：提出期限は原則として一週間後（次週の講義日）とする。提出方法は原則としてメールによるものとするが，詳細は各教員より連絡する。（教員によって異なるので注意してください。）

### 講義予定

第1回	4/16	堀井	国際プロジェクトと社会技術
第2回	4/23	吉田	地球公共財としての広域インフラ整備;国際機関で働く意味
	5/7		(休講)
第3回	5/14	加藤	途上国の都市交通問題と国際協力の可能性
第4回	5/21	目黒	理論から実践へ，防災における国際協力と共同研究
第5回	5/28	小澤	途上国インフラのマネジメントシステム
第6回	6/4	沖	水と気候変動に関わる国際プロジェクトが目指すもの
第7回	6/11	小池	発想から国際合意への道のり
第8回	6/18	藤野	国際社会で生きる社会基盤エンジニア
第9回	6/25	田島	沿岸域開発と環境アセスメント
第10回	7/2	石田	建設/環境テクノロジーの技術移転
第11回	7/9	本田	国際社会での防災技術の活用

## 講義概要

### 4月16日 国際プロジェクトと社会技術 (堀井)

9.11 米国同時多発テロ以降, 国際開発援助の再戦略化が起こっている. 2003年7月世界銀行は援助政策を転換しインフラ整備に回帰することを発表した. 国際開発援助の歴史を踏まえて, 今後の動向を予測し, インフラに対する投資のあり方を論じる. あわせて, 工学部社会基盤学科の国際プロジェクトコースにおける国際社会で活躍する人材を養成する試みを紹介する.

### 4月23日 地球公共財としての広域インフラ整備:国際機関で働く意味(吉田)

世界人口の約7割を占める開発途上国における国境を越える広域的インフラ整備は, 世界とりわけアジア地域の急速な統合化に伴って”共存共栄に”必要不可欠な「地球公共財」の一分野として認知され始めている. そして, 「地球公共財」の政策(計画・ファイナンス・執行・運営管理)策定に重要な役割を担う国際機関の活動の概要を紹介し, 将来, 「国際プロジェクト」に参画挑戦しようと志す学生への助言としたい.

### 5月14日 途上国の都市交通問題と国際協力の可能性(加藤)

開発途上国では, 急激なモータリゼーションに従って, 深刻な交通渋滞問題が発生している. しかし, これらの国々では, 財政基盤が不安定でかつ交通・都市計画に従事する者の教育が不十分なために, 適切な対応がとられていないのが実情である. そのため, 我が国をはじめとする諸国が, 問題解決のための支援を行ってきている. 東アジアを中心とした途上国の交通問題の実態と, それに対する国際協力の実情を紹介する.

### 5月21日 理論から実践へ, 防災における国際協力と共同研究(目黒)

災害に国境はない. 規模の大きな災害は, 政治や経済による境界とは無関係に, 地域の基盤施設や住民を襲う. 災害に関連する課題には, それぞれの国が自国の限られた人的/物的資源を活用するだけでは解決できないものも多い. 各国に共通する問題も多いし, 協力して対応することでしか根本的な解決は望めない問題も存在する. このような状況の下, どのように問題点を解決していけばいいのか. 「ローカル・アヴェイラビリティ」と「ヒューマン・ネットワーク」をキーワードとして, 相手国とそこで活動を展開する邦人の安全のために, 防災における国際協力と共同研究のあるべき姿に関して考える.

#### 5月28日 途上国インフラのマネジメントシステム(小澤)

政府開発援助は節目の50年目を迎え、わが国の国益に照らして、今後の援助のあり方が模索されている。一方、これまで援助によって整備されてきたインフラの効果を最大化する方策を考えることも極めて重要である。インフラの運営管理に必要なマネジメントシステムなどについての支援活動は、ODAの供与者責任のひとつと考えられる。途上国自身が自立可能な支援のあり方、インフラのマネジメントシステムについて考える。

#### 6月4日 水と気候変動に関わる国際プロジェクトが目指すもの(沖)

グローバルな水・エネルギー循環解明のための国際的な学術共同研究プロジェクトの下、東南アジアの熱帯モンスーン地域において観測研究が実施された。このプロジェクトの概要と、それを通じた現地の水資源管理現業機関、大学等の研究機関の人材育成、等に関して最新の事例を紹介すると共に、そうしたプロジェクトを成功させる秘訣、留意事項等に関して紹介し、水資源や社会基盤に限らず、広く学術的貢献のあり方を提言する。

#### 6月11日 発想から国際合意への道のり(小池)

環境問題はサイエンスの場のみならず、いまや国際政治の主要課題の一つに取り上げられている。2003年のエビアンでのG8サミット、ワシントンでの地球観測サミットに続き、2004年4月には東京にて第2回地球観測サミット、2005年2月にはブリュッセルにて第3回地球観測サミットが開催され、世界60カ国と1地域(EC)、37の国際機関の代表が集い、今後10年の実施計画が合意され、実施のための新しい国際組織が作られた。国際協力、人材育成を柱に据えて、健全な政策決定と社会的福祉に資する目的で、総合的で、協調的で、持続的な地球観測システムの実現へ向けた実質的な取り組みが始まろうとしている。本計画の立案に携わってきた立場から、実施計画の内容と策定にあたってのエピソードを紹介する。

#### 6月18日 国際社会で生きる社会基盤エンジニア(藤野)

エンジニアは、大企業の中で、組織の一員として仕事をするというイメージが強いが、海外では、たとえ大きな組織の中で働くとしても、エンジニアとしての個人的な活躍が期待される場合も多い。社会基盤/インフラストラクチャ関係で、国際的な活躍をしているエンジニア数人を紹介するとともに、持つべき資質について議論する。

#### **6月25日 沿岸域開発と環境アセスメント(田島)**

水と大気と陸地の接点である沿岸域の開発には、物流や産業、観光資源などの利用的側面や、津波や高潮に対する防災機能、さらに、水質や水産資源などの環境的側面などが相互に関連する。このような沿岸域開発では、計画や環境アセスメント、設計、施工に至るプロセスが、わが国や欧米諸国、途上国の間で異なる。本講義では、様々な国における沿岸域開発の具体例を紹介し、その違いを考察する。

#### **7月2日 建設/環境テクノロジーの技術移転(石田)**

政府開発援助及び NGO/NPO 等による国際援助活動において、技術移転による国際協力はわが国の強みを生かした有効な形態の一つである。技術移転のプロセスを、歴史、経済・社会環境、自然条件、教育、及び産業構造等の観点から眺め、成功・失敗事例を分析することにより、スムーズな技術移転に必要な条件・要素を議論する。具体例として、中国・東南アジアにおける環境・エネルギー技術移転、および建設材料・施工技術の普及と移転を取り上げる。

#### **7月9日 国際社会での技術活用:地震防災 (本田)**

途上国においても先進国においても防災の重要性は変わらない。しかし、途上国においては防災インフラの整備の遅れ、研究・観測体制の不整備による情報の欠如などの問題が避けられない。そのような状況に起因する不確定性の中で合理的な防災対策をとるための方法論について考える。